

7日 土曜

ヤコブ



4:11 兄弟たち、互いに悪口を言い合っては
いけません。自分の兄弟について悪口を言っ
たり、さばいたりする者は、律法について悪
口を言い、律法をさばいているのです。もし
あなたが律法をさばくなら、律法を行う者で
はなく、さばく者です。

4:12 律法を定め、さばきを行う方はただひと
りで、救うことも滅ぼすこともできる方です。
隣人をさばくあなたは、いったい何者ですか。

4:13 「今日か明日、これこれの町に行き、そ
こに一年いて、商売をしてもうけよう」と
言っている者たち、よく聞きなさい。

4:14 あなたがたには、明日のことは分かりま
せん。あなたがたのいのちとは、どのような
ものでしょうか。あなたがたは、しばらくの
間現れて、それで消えてしまう霧です。

4:15 あなたがたはむしろ、「主のみこころで
あれば、私たちは生きて、このこと、あるい
は、あのことをしよう」と言うべきです。

4:16 ところが実際には、あなたがたは大言壮
語して誇っています。そのような誇りはすべ
て悪いことです。

4:17 こういうわけで、なすべき良いことを
知っていながら行わないなら、それはその人
には罪です。

兄弟姉妹を悪く言う人は、たいい自分はその
人よりもましと思っています。そのような思いは人
を評価していることで、聖書で言う「さばく」とい
うことになるのです。

ここにあるように「さばきを行う方は、ただひと
り」神様だけですから、私たち人間に人をさばく権
利はありません。

謙遜になる必要がありますが、それには自分は
「あすのことはわからない」との認識が大切です。

自分は今はよくできていても、明日にはどうなる
かわからない。すべては主のみこころだという認
識です。

これらも含めて、なすべきことをしているかど
うかも、考えてみる必要があります。自分は間
違ってない、しっかりやっけていて批判されるよ
うなことはないと思っけていても、なすべきことが
他にあるのに、それをしていないのかもしれない
のです。

教会も家庭でも職場でも、きっと他の人が様々
な役割を担ってくれているから、私たちの働きが
生きているのです。自分で責任の範囲を決めてしま
って、自己弁護しないようにしましょう。謙遜
になって、自分の及ばないところを担ってくれる
人に感謝しましょう。また主に祈って、なすべき
なのに気づかないことがなかったか、聞いてみま
しょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の
約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願
いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのど
の部分の主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

